

## 相談事例(21)

# 異物混入！？…そんな時どうする？

### 相談事例 1

デパートで買った「焼きエビ」にベージュ色の大きな硬いかけらが数個混じっていた。かなり減ってから気がついたので、食べてしまっているかも知れなくて不安だ。

(70代男性)

### 相談事例 2

インスタント麺の蓋を開けたら、大きなゴキブリが入っていた。メーカーに連絡したらすぐやってきて「調査します」と言い残してその製品を持ち帰った。どの時点で混入したのか、一緒に買ったものは大丈夫なのか、回答を待っていたがいつまでたっても何の連絡も無くがっかりした。(60代男性)

最近大手ハンバーガーチェーンでのプラスチック片混入事件に端を発して、食品に虫、ビニール片、金属片、プラスチック片等様々な異物が混入していたというニュースが相次いでいます。食品の安全性に関する関心が一段と高まっている中、当相談室でも立て続けに2件のご相談がありました。

## ■処理概要

**事例1** 販売者であるデパートに異物の分析調査を依頼しました。その結果、異物の成分が炭酸カルシウムであること、一部に波型の凹凸が見られたこと、成分からカルシウムが検出されたことから「貝殻の破片」と推察されるということで、相談者にそれを伝えたところ安心されました。今回は最初の連絡、分析依頼からひと月足らずで結果が戻ってきました。デパート等では対応の手順が確立されているのかもしれませんが。

**事例2** 相談者のご希望で情報提供という形でお受けしました。

国民生活センターのP I O-N E Tによると、食品の異物混入に関する相談は2009年度以降累積で16,094件(2015.1.10現在)。異物の正体は虫など(ゴキブリやハエなど)の混入がもっとも多く次に金属片などで、そのうち「異物によって歯が欠けた」「異物により口内を切った」など危害情報は3,191件です。

今年に入り大手ハンバーガーチェーンでの商品に様々な異物が混入していたという報道から

わずか数ヶ月の間に誌面を騒がせた異物混入事件は50件を下りません。商品の中に針やつま楊枝を忍ばせたという事件や、宅配弁当や給食からタバコの吸殻や金属ネジなどが見つかったという事件もあります。しかし〈事例1〉〈事例2〉の他にも、パック入り果実飲料に異物が混入していたという相談など明らかに製造工程で混入したのではないかと思われる、ひとつ間違えれば身体に危害が生じる深刻な事案も多くあります。

今年1月、厚生労働省は多発する異物混入事件に対し、事業者に対し「食品等事業者が実施すべき管理運営基準に関する指針(ガイドライン)」の徹底で食品の安全性が確保されるよう促しています。しかし、インスタント麺にゴキブリが混入していたと公になり、全商品販売停止・工場生産停止・自主回収に踏み切り販売再開までに半年をかけた製造会社があるかと思えば、事例2のような事業者もあり対応は様々です。消費者へ安全な製品を提供する責任を担う立場として今一度見直ししてもらいたいものです。

そして消費者は行政や事業者と一体となり、泣き寝入りせず事業者に正しく「物申す消費者」になることが大切です。

(以上)